

	氏名	年齢	役職等	功績概要
1	内野 栄治	63	北海道立衛生研究所理化学部研究職員	北海道衛生研究所において、平成7年から平成19年にわたり、温泉の分析業務や調査研究に従事し、温泉を活用した健康づくりや温泉のメタン、ホウ素に関する論文等を多数発表するなど、温泉資源の保護と適正利用の推進に大きく貢献した。また、これまでに得た温泉に関する知識や経験を活かし、道内各地にて温泉の依頼講演の講師や学会誌「温泉科学」の編集員を務めるなど、温泉の普及啓発にも寄与している。
2	岡村 興太郎	68	(一社)日本温泉協会副会長 (有)法師温泉長寿館代表取締役 (一社)群馬県温泉協会会長 群馬県旅館ホテル生活衛生同業組合相談役 群馬県自然環境保全審議会温泉部会委員 群馬県観光審議会委員	日本温泉協会において平成9年から理事、常務理事を歴任し、現在は副会長として温泉資源の保護と適正利用に関する工法普及活動の推進に努め、温泉資源の保護と適正利用の推進に貢献している。 また、群馬県温泉協会において平成3年から理事、専務理事を歴任し、現在は会長として講習会の開催や関係団体との連絡調整など、温泉地の発展に尽力している。とくに、平成13年からは群馬県自然環境保全審議会温泉部会委員に就任し、委員の立場から群馬県内の温泉資源の保護に力を注ぎ、県温泉行政の推進に貢献した。
3	越谷 信	55	国立大学法人岩手大学工学部准教授 岩手県環境審議会委員・岩手県環境審議会温泉部会(会長)	岩手県環境審議会温泉部会において、部会長として15年以上の間、温泉行政の推進に貢献し、温泉の保護と適正利用の普及啓発に尽力している。
4	佐々木 信行	62	国立大学法人香川大学教育学部教授	日本温泉科学会において、評議員として14年間、事務局長として2年間、理事として4年間、日本温泉科学会の運営、研究推進活動に従事するとともに、温泉の泉源監視委員会委員を務めるなど、温泉の保護と適正利用普及啓発に尽力した。研究面では温泉化学、鉱物化学の分野において36年の長きにわたり温泉水の化学組成変化や温泉沈殿物の研究を継続的に行い、これまで温泉関係の論文を中心に100篇に及ぶ論文、解説文、評論分を執筆、著書は共著を含め8冊上梓した。また応用地質学会や長寿大学など各種の講演会で招待講演を行うなど、温泉利用や環境保護の普及活動に努め、平成17年より平成22年まで四国新聞紙上で200回以上にわたり「平成温泉学入門」、「続平成温泉学入門」を連載執筆し、温泉学の普及、啓蒙活動にも積極的に取り組んできた。
5	筒井 重好	75	(一社)山形県温泉協会温泉問題研究委員会委員 (一社)山形県温泉協会副会長 湯野浜温泉源泉有限公司社常務取締役 湯野浜温泉旅館協同組合理事	(一社)山形県温泉協会の常務理事、同副会長として通算17年間にわたり、温泉事業関係者の資質の向上と温泉に関する諸問題解決に指導的役割を果たし、協会運営においても先験的な考えを持って、リーダーの1人として活動した。 (一社)山形県温泉協会温泉問題研究委員会委員、同源泉状況調査委員会委員として、温泉に関する諸問題解決に指導的役割を果たしている。県内ほぼすべての源泉の実情を把握し、温泉の保全と適正利用及び温泉街区の環境整備等の向上を図る等、県内温泉業界の発展に大きく寄与している。 温泉事業従事以来、湯野浜温泉組合理事、組合長として、常に温泉の健全な維持管理に努め、温泉の集中管理を達成した。また、新たに発足した湯野浜温泉源泉有限公司の常務取締役に就任し、温泉の適正利用に指導的役割を發揮し、効果的な集中管理によって生じた余剰温泉を地域の一般家庭にも分湯した。
6	中村 洋一	63	国立大学法人宇都宮大学教授	栃木県内で、最も温泉及び、その根源にある火山活動について造形が深い地質学研究者であり、温泉法に基づく審議会の委員として通算16年間従事し、温泉の保護と適正利用に尽力すると共に、温泉行政の推進に貢献した。
7	久富 邦彦	61	国立大学法人和歌山大学教育学部教授	和歌山県環境審議会温泉部会等の委員を長年にわたり務め、学識経験者としての立場から温泉資源の保護と適正な利用に取り組んでいる。また温泉開発に係る安全対策や可燃性天然ガスによる災害防止に関してその地質に係る専門知識を活かし温泉行政の円滑な推進に寄与するなど業界の発展はもとより和歌山県の温泉行政や県勢の発展に貢献した。さらに平成25年7月からは和歌山県環境審議会温泉部会長に就任するなど、温泉行政の牽引役のひとりとしてその知識と経験を發揮する傍ら地質ボランティアガイド養成研修や地域での公開講座の講師を務めるなど社会貢献活動にも意欲的に取り組んでいる。

	氏名	年齢	役職等	功績概要
8	穂高温泉供給株式会社	S45.2.3 設立	-	前身である(株)穂高温泉開発公社設立当初より、長野県温泉協会会員となり、温泉の引湯開始からいち早く温泉の集中管理に着手し、穂高山麓地域の安定した温泉供給に努め、「穂高温泉郷」を全国に誇る温泉地として知らしめ、源泉の保護、有効活用と適正利用の推進に貢献した。
9	牧野 直樹	65	国立大学法人九州大学名誉教授 大分県環境審議会温泉部会委員 大分県温泉調査研究会委員 日本温泉気候物理医学会理事	昭和49年京都府立医科大学を卒業し、同年九州大学温泉治療学研究所付属病院及び九州大学医学部付属病院にて臨床研修後、循環器専門医として昭和57年に医学博士を授与された。昭和61年より九州大学生体防御医学研究所(旧温泉治療学研究所)に勤務し温泉医学の研究を開始した。平成11年に教授に就任し、温泉入浴におけるサイトカインの動態に関する研究を、温泉効果としての老化遺伝子制御機構の研究を行った。その成果は①Am.J.physiol.Heart. Circ. Physiol. 302:H2092-101. ②Heart Vessels/2013 Mar;28(2):173-8などに掲載し温泉医学への新たな知見を発表した。また大分県環境審議会温泉部会委員として温泉の保護と適正利用普及啓発に尽力した。また大分県温泉調査研究会委員として温泉研究に貢献した。このように同人は専門知識を活かし広く社会や地域のために多大な貢献をもたらしたので、その功績は極めて顕著である。
10	松岡 数充	65	国立大学法人長崎大学大学院水産・環境化学総合研究科附属環東シナ海環境資源研究センター教授	長崎県において、平成11年から長崎県環境審議会温泉部会委員として、また、平成20年からは長崎県環境審議会温泉部会長として、通算15年間にわたり、温泉の保護と適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に貢献した。特に専門である地質の知見を基に温泉湧出に係る地質、地層関係への影響等について、適切な意見や助言を行うなど、長年にわたり温泉行政の推進に貢献した。
11	吉川 和男	66	国立大学法人群馬大学名誉教授	群馬県温泉協会副会長として、長期にわたり温泉の保護、適正利用の推進に多大の貢献を行っているほか、群馬県温泉協会学術部副委員長(温泉科学班長)として、温泉地質、温泉科学、温泉医学等の研究に関し、指導的役割を果たしている。特に、平成17年に群馬県が改正した「大深度温泉掘削基準の策定及び群馬県温泉事務指導要綱の改正」に際しては、研究の成果が活用される等、群馬県の温泉行政に多大に貢献した。また平成25年には群馬県の実施する温泉アドバイザー研修において講義等を実施し、資源保護と適正利用の普及啓発に努めているところ。